

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団
公演団体名	日本フィルハーモニー交響楽団

内容

【音楽室探検ワークショップ】

日本フィルのヴァイオリン奏者、打楽器奏者の2名が学校の音楽室を訪問し、身近な環境で音楽家や演奏を親しく感じて頂く機会を作るとともに、児童・生徒と一緒に学校の音楽室にある楽器の魅力や合奏の魅力を発見します。内容は以下により構成されます。

①ヴァイオリンによる演奏とワークショップ

みなさんのよく知っている「キラキラ星」のメロディを、ヴァイオリンが様々なテンポと表情で次々と変奏し、それに対しメロディに相応しい打楽器と奏法で伴奏します。

また、ヴァイオリンと弓の構造や音の出るしくみをソロ演奏とともにわかりやすく解説する楽器紹介の時間も設けます。

②打楽器による演奏とワークショップ

タンバリンや小太鼓や木琴等、学校が所有し児童生徒が普段手にしている楽器を取り上げ、一般的な奏法やプロならではの特殊奏法を解説しながら演奏します。楽器の演奏法について理解を深めるとともに、楽器に親近感を感じ、興味を持つきっかけを創ります。また、音楽室には普段の器楽合奏にはあまり使用しない、ボンゴやギロ等のラテン楽器もあります。これらの珍しい音色とその正しい奏法も、理解して頂きます。

③アンサンブル

ヴァイオリンとマリンバの合奏で、「輪唱(2人ともメロディ)」「メロディと伴奏」という形態の違いを、クイズ形式で答えていただき、楽曲の仕組みを発見していただきます。また楽員2人による、スティーブ・ライヒ:「クラッピング・ミュージック」をとりあげ、手拍子による音楽の発展形を皆さんに理解していただきます。

④生徒との共演

全員参加で、手拍子によるリズム体験をします。低学年でも理解できるシンプルなりズムパターンを提示し、別のグループにはそのリズムパターンに1拍を追加します。2グループが同時進行するミニマル・ミュージックの手法により、不思議な音楽空間が生まれます。

タイムスケジュール (標準)

8	9	10	11	12	13	14	15	16
					学校	練	開	終
					入り	習	演	演

*新型コロナウイルスの影響下で、授業時間に抵触しない放課後の音楽室での開催を基本としています。
但し練習の時間からの音楽室の使用が厳しければ、ワークショップ自体の中止も検討可能です。

派遣者数

「音楽室発見」ワークショップ 合計 (3 名) 指導者 (2名)、スタッフ (1名)

学校における事前指導

指導は特に必要ありません。事前に学校の楽器の種類・数などを教えていただきます。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団
公演団体名	日本フィルハーモニー交響楽団

演目
<p>【小学校の部】</p> <p>♪ オッフェンバック: 歌劇「天国と地獄」序曲 より《カンカン》</p> <p>♪ ドヴォルザーク: スラブ舞曲第1番 ★ 楽器紹介(木管→金管→打楽器→弦楽器)</p> <p>♪ グリーグ: 「ホルベルク」組曲より《前奏曲》</p> <p>♪ ブラームス: ハンガリー舞曲第5番</p> <p>♪ ヴェルディ: 歌劇「椿姫」第1幕 より《乾杯の歌》(ソプラノ入り)</p> <p>♪ J. シュトラウスⅡ世: 喜歌劇「こもり」より「侯爵様、あなたのようなお方は」(ソプラノ入り)</p> <p>♪ ジーツィンスキー: ウィーンわが夢の街 (ソプラノ入り)</p> <p>♪ ベートーヴェン: 交響曲第5番「運命」より《第1楽章》</p> <p>♪ 「ピリブ」「さんぽ」など(児童合唱あり) * 演奏の有無併せ、学校と協議</p> <p>♪ 学校校歌 * 演奏の有無併せ、学校と協議</p> <p>【中学校の部】</p> <p>♪ ドヴォルザーク: スラブ舞曲第1番</p> <p>♪ ベートーヴェン: 交響曲第5番「運命」より《第1楽章》</p> <p>♪ ヴェルディ: 歌劇「椿姫」第1幕 より《乾杯の歌》(ソプラノ入り)</p> <p>♪ J. シュトラウスⅡ世: 喜歌劇「こもり」より「侯爵様、あなたのようなお方は」(ソプラノ入り)</p> <p>♪ ジーツィンスキー: ウィーンわが夢の街(ソプラノ入り)</p> <p>★ <u>楽器紹介</u> 以下①と②よりセレクト</p> <p>① ♪ カジノユキ編曲: オーケストラで聴く日本の名曲「春夏秋冬」</p> <p>② 一つ一つの楽器を、解説とパフォーマンスによってご紹介(木管→金管→打楽器→弦楽器)</p> <p>♪ グリーグ: 「ホルベルク」組曲より《前奏曲》</p> <p>★ <u>指揮体験コーナー</u></p> <p>♪ ブラームス: ハンガリー舞曲第5番(生徒3名による体験。冒頭から20秒)</p> <p>♪ ブラームス: ハンガリー舞曲第5番(指揮者による全曲演奏)</p> <p>♪ ドヴォルザーク: 交響曲第8番より《第4楽章》</p> <p>♪ 各学校校歌 * 演奏の有無併せ、学校と協議</p>

派遣者数
合計 (約 72 名)
出演者 (約 66 名)
スタッフ (約 6 名)

タイムスケジュール (標準)								
8	9	10	11	12	13	14	15	16
		学校 入り		練 習		開 演	終 演	

実施校への協力依頼人員
<p>公演当日、搬入開始時から搬出終了時まで、体育館内に 1 名、ご協力を頂けると助かります。</p> <p>楽屋にお湯・ティーバッグなど簡単な飲み物をご用意頂ければ幸いです。</p> <p>冬期の公演には必ず、体育館にストーブをご用意ください。よろしくお願いいたします。</p>

演目解説
<p>♪オッフェンバック：喜歌劇「天国と地獄」序曲 より《カンカン》(小学校のみ)</p> <p>喜歌劇「天国と地獄」は原題を「地獄のオルフェ」と言い、真面目な夫婦愛のギリシア神話「オルフェウスとエウリディケ」をドタバタ劇にしたパロディ作品です。序曲の最後の部分が、フレンチカンカン(踊り)のBGMとして使われたことからこの部分が特に有名になり、単独して演奏されるようになりました。</p>
<p>♪ドヴォルザーク：スラブ舞曲第1番</p> <p>ブラームス作曲の『ハンガリー舞曲集(ピアノ連弾)』が発表後すぐ大人気となり、楽譜の出版社がブラームスの弟子のドヴォルザークに作曲を依頼し、発表されたのが『スラブ舞曲集(ピアノ連弾)』です。こちらもちまちま人気を博し作曲者自身がオーケストラ用に編曲しました。第1番はフリアントです。「フリアント」とはボヘミアの民俗舞曲で、4分の2拍子と4分の3拍子が交互に入れ替わる熱狂的な舞曲です。それがスラヴ的なリズム感と郷愁を生み出しています。</p>
<p>♪グリーク：「ホルベルク」組曲より《前奏曲》(小学校のみ)</p> <p>ノルウェーの作曲家グリークが作曲した弦楽合奏曲。「ホルベルク」(ホルベア)とは「ノルウェー文学の父」と呼ばれるノルウェーを代表する作家のことで、グリークが40歳の頃に、その生誕200年祭のための音楽を依頼されてこの作品を作曲しました。ホルベアが生きた時代に主流だったバロック音楽を用い、《前奏曲》はつらつとした盛り上がり富んでいます。</p>
<p>♪ブラームス：ハンガリー舞曲第5番</p> <p>ハンガリー舞曲とは、ブラームスがハンガリーのロマ(ジプシー)音楽を元に編曲した楽曲で、元は4手ピアノ(連弾)用として作られましたが、のちに管弦楽版に再編曲されています。第5番が一番有名で頻繁に演奏されています。舞曲ならではのリズム変化が特徴です。</p>
<p>♪ヴェルディ：歌劇「椿姫」第1幕 より《乾杯の歌》(ソプラノ入り)</p> <p>ヴェルディは19世紀を代表するイタリアのオペラ作曲家。オペラ「椿姫」はヴェルディの代表作とされるだけでなく、世界のオペラ劇場の中でも最も上演回数が多い作品の一つに数えられています。「乾杯の歌」は第1幕に歌われるアリアで、主人公の男女がパーティで初めて出会う場面の歌です。</p>

♪ジーツィンスキー：ウィーンわが夢の街（ソプラノ入り）

ジーツィンスキー（1879 - 1952）は、ウィーンの作曲家・文筆家。この曲は「カーレンベルクの丘から下りてきたとき、夕日に満ちたウィーンの景色を眺めていて歌が浮かび」作曲されたといい、彼が生涯愛してやまなかったウィーンへの思いをノスタルジックな賛美を込めて歌い上げた歌曲。今でもウィーンを訪れる多くの観光客やウィーン市民に愛されている曲でもあります。

♪ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」より《第1楽章》

冒頭のフレーズで有名な交響曲第5番は、日本では「運命」の名で親しまれており、まさにクラシック音楽の代名詞と言っても過言ではありません。ベートーヴェンはこの曲を作曲した当時は難聴でほとんど耳が聞こえないという絶望的な状態でした。冒頭の旋律の意味を弟子に尋ねられて、彼は「運命の扉をたたく音」だ。と言った逸話は有名です。その難聴を乗り越えて作曲し、第1楽章の苦しみを乗り越えて第4楽章へと繋がってゆくという構成になっており、その「第1楽章」を聴いていただきます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本編中は要所にトークを入れ、音楽をリードしながら進めます。退屈せずまた十分にオーケストラの音を味わえる内容になっています。演奏者が子どもたちの座っている近くで演奏し、楽器が生きている姿を目の前で味わうことができる工夫を随所にちりばめています。

クラシック音楽を身近に感じて、「私も指揮者になりたい！オーケストラ奏者になりたい！」と思う一方、「今度はホールに出かけて行って演奏会を聴いてみたい！」と、次の段階のアクションに進んでもらえるよう制作しています。

全校で最も歌唱機会の多い作品（校歌、またはその他）を、フル・オーケストラの伴奏で歌っていただきます。演奏前にソプラノが、姿勢や呼吸の仕方など上手に歌唱するためのワンポイント・レクチャーを行い、大きな声で心をこめて歌うことの素晴らしさを伝えます。

体育館では、子どもと同じ目線にステージを設営し、見やすく、聴きやすいように配慮いたします。＊学校の要望により、合唱入り曲の演奏をカットし本番時間短縮も対応可能です。

児童生徒とのふれあい

基本的に、本格的な色ドレスを纏ったソプラノは歌唱する児童の列の間を、歌いながら歩きます。＊学校の要望により行わない場合も対応可能です。